SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

「流れの化石」：掛川層群・大日砂岩層中の貝化石の産状(地学散歩(23))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野嶋, 宏二, 高橋, 堅二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025576

静岡地学　第43号（1981）

地学散歩（23）

「流れの化石」

―掛川層群・大日砂岩層中の貝化石の産状―

野　嶋　宏　二*　高　橋　堅　二**

「流れの化石」とは何だろうと奇妙な感じを受けられたかもしれません。巡検ではじめてこの露頭（右の写真）をみたとき、「あ、貝化石が流れている」と感じ、自然の妙の美しさに感動しました。

これは、昭和55年8月地学会西部支部夏季地学巡検でのことで、このときは袋井市北方地域の新生界第三系を袋井高校の大久保晃先生の案内により、みて廻りました。

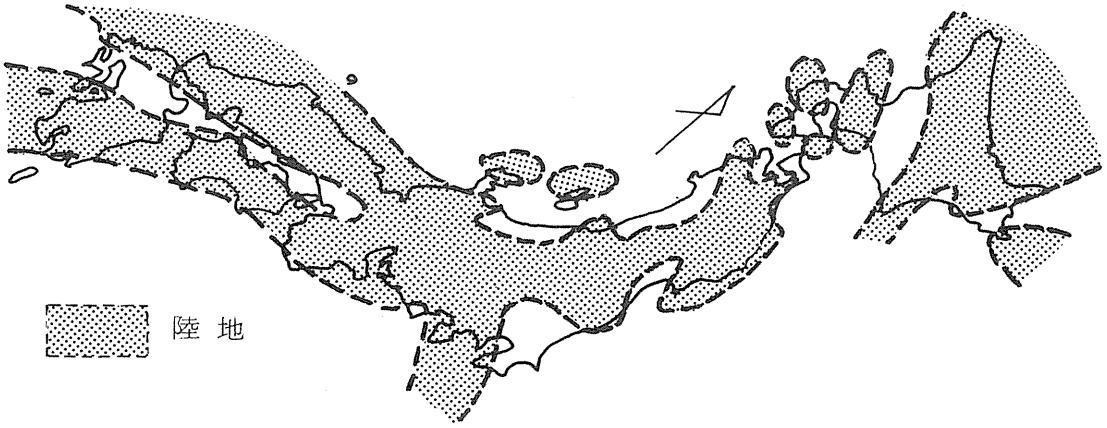
この袋井市北方地域では、新第三系の各地層が地図上の南西方向へ行くに従い新から旧へと順次変化する露頭が続き、同時に火山灰層、貝化石、不整合……等々基本的な地学事象が次々と観察できます。このため、ここは各大学の地質学専攻学生が一度は実習に訪れる巡検コースとなっています。

この「流れの化石」の露頭は地質図の④の位置。最近、自動車の通れる素掘りのトンネルであったところを切割にしたところです。この化石を含む黄褐色砂層は新生代新第三紀鮮新世の掛川層群の大日砂層と呼ばれ、その当時の浅海に堆積した地層です。

含まれる貝化石はスウチキサゴなど浅海砂底棲の貝が水の動きの烈しい浅海で流され、掃き寄せ化石床として堆積したもので、写真のように化石が流れているような産状を呈するようになったのです。このため、ここの貝化石を採取しますと二枚揃った完全なものはひとつもなく、ほとんどがどこか破損しています。これらの代表的なものは（iii）ページの写真に示しました。

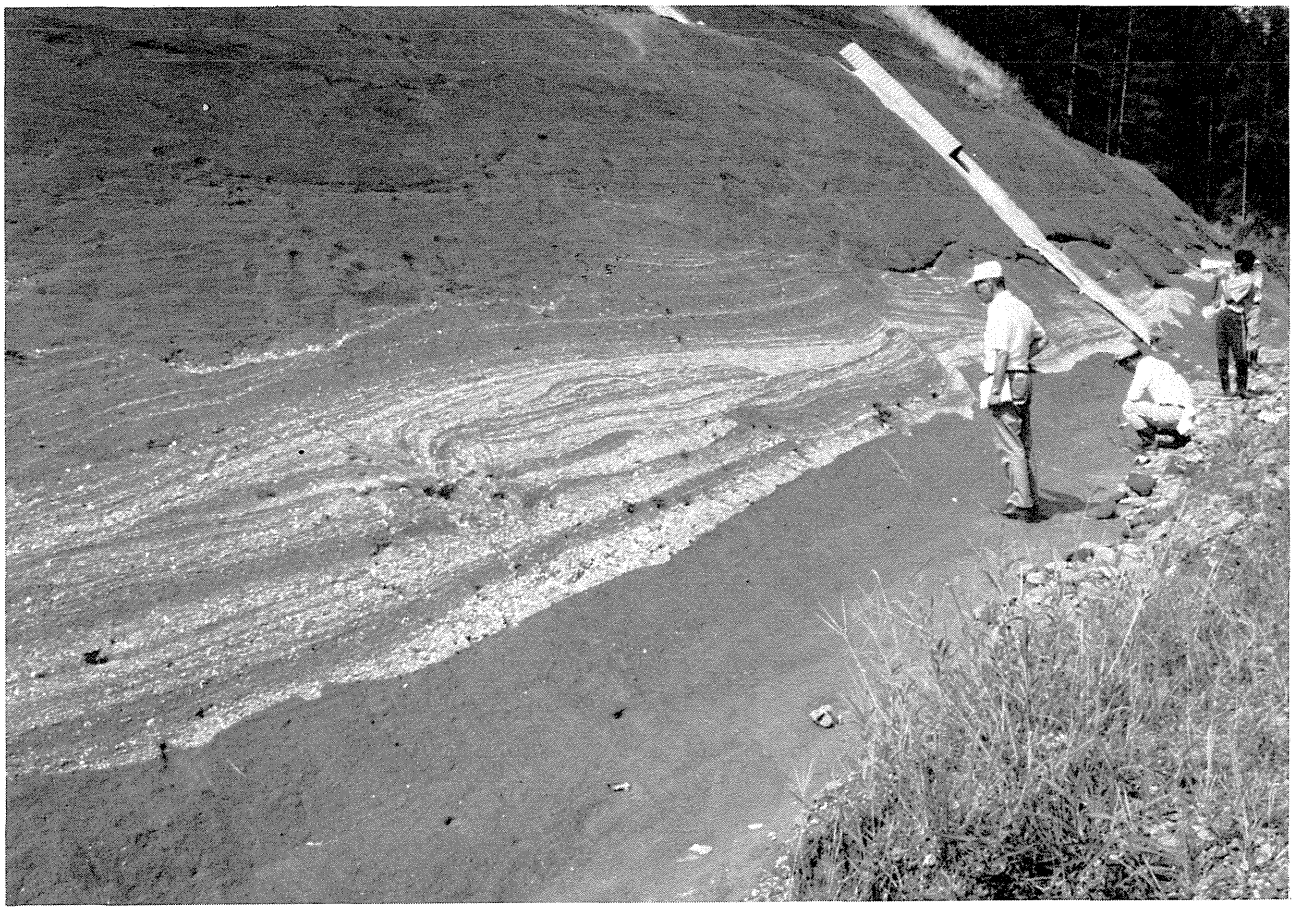
この掛川層群の貝化石の組成は約50％が現生種であり、種類は現在の遠州灘沿岸の浅海砂底棲の貝とよく似ているとのことです。

ぜひ、一度見学にいらっしゃることをおすすめします。

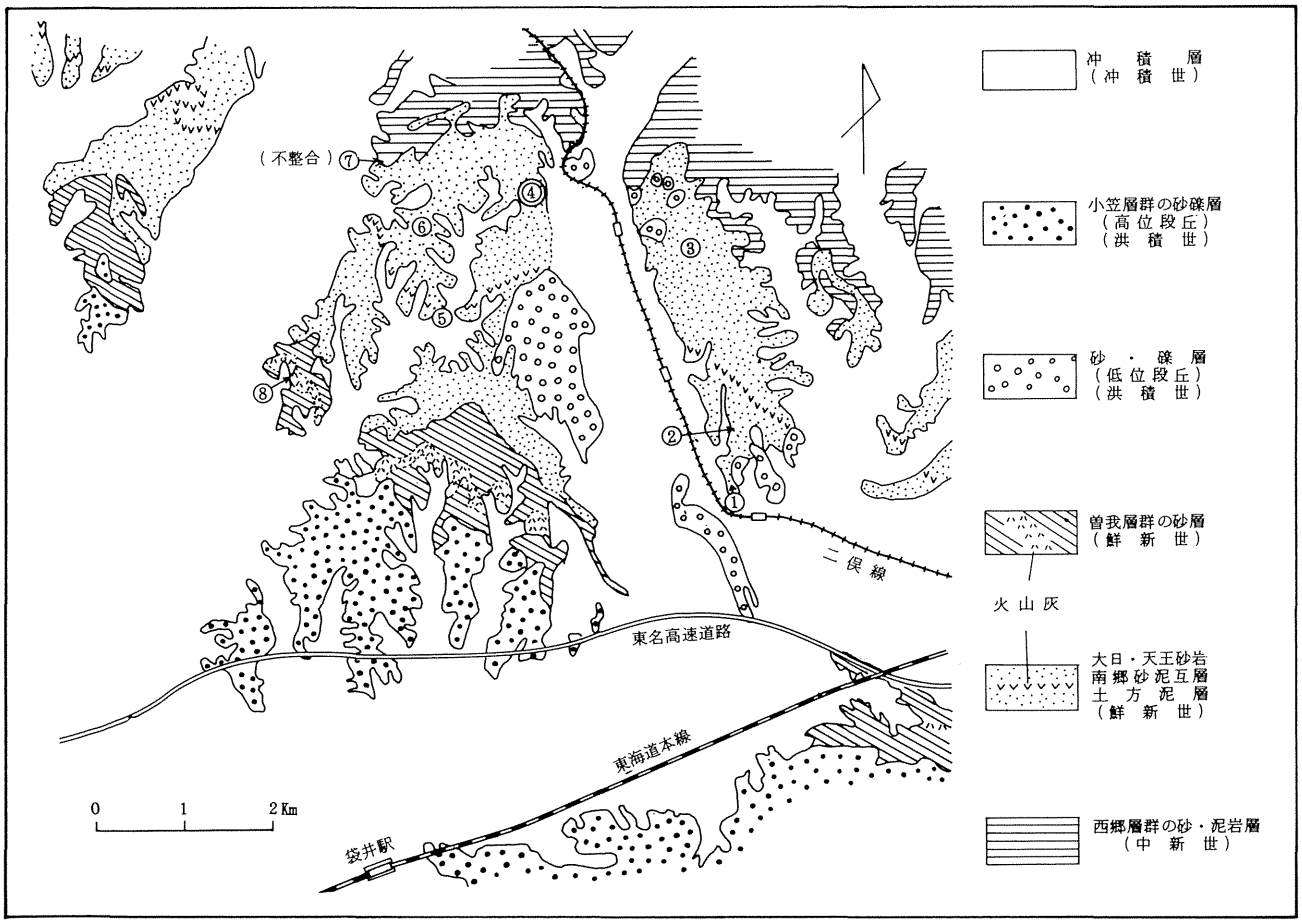


新第三紀鮮新世末の日本列島古地理図
（清水書院高校地学Ｉより）

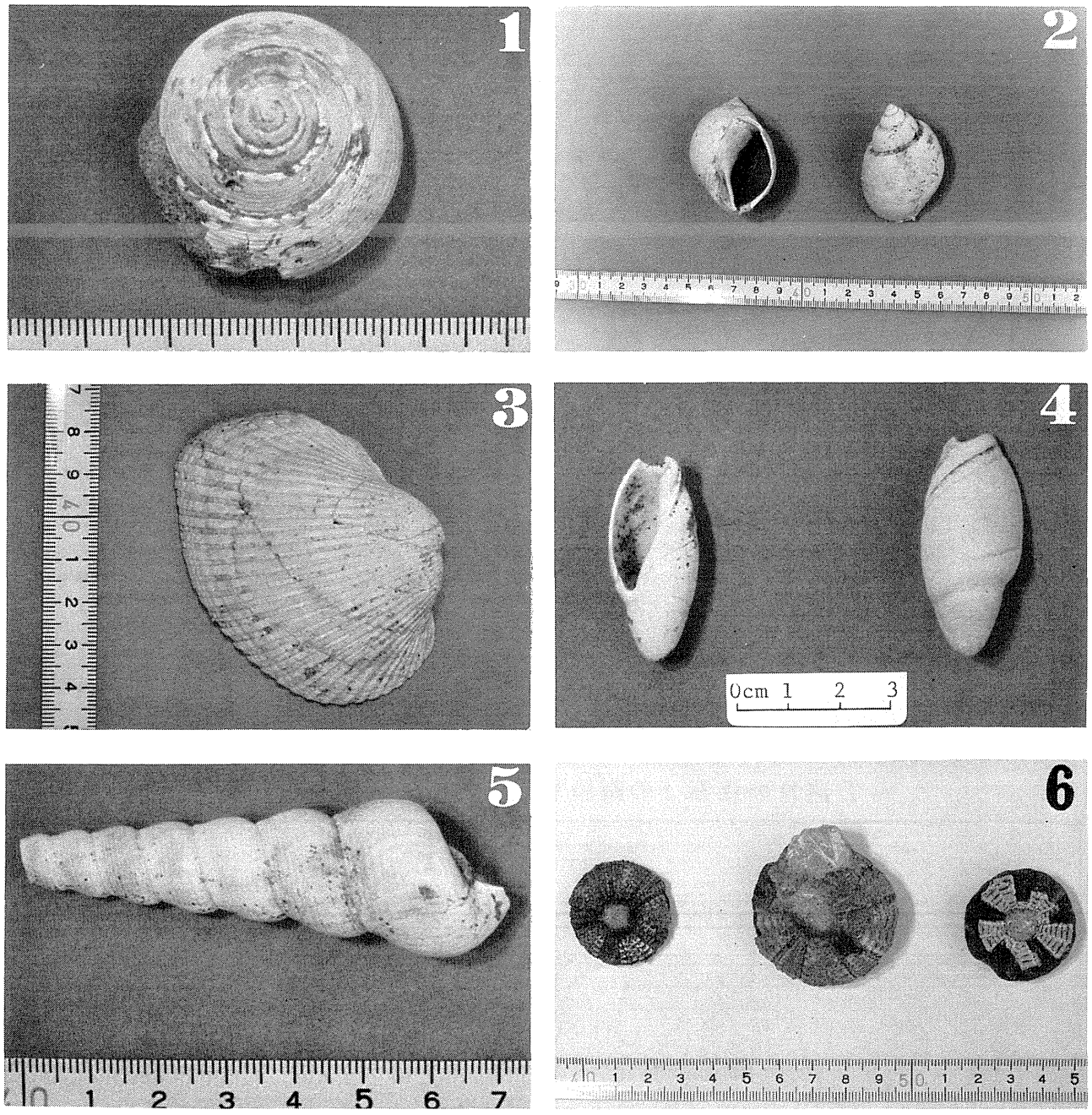
＊県立中央図書館　＊＊県立伊豆中央高校



「流れの化石」の露頭写真、白い縞模様が貝化石



袋井市北方の地質図



掛川層群・大日砂岩層中の貝化石・ウニ化石

① スウチキサゴ

Suchium suchiense (Yokoyama)

② バイの類

Babylonia elata (Yokoyama)

③ サトウガイの類

Amadara satowi castellata (Yokoyama)

④ リウグウボタルの類

Ancilla okawai Yokoyama)

⑤ キリガイダマシの類

Turnitella perterebra Yokoyama)

⑥ ウニの類